

[illegible]

2015年9月1日～2016年8月24日までの間に、外来種抜きを合計17回行った。

(2) エリアごとの生えている植物の占める割合の調査回数

2016年4月3日～8月24日までの間に、生えている植物の占める割合を合計11回調べた。

2016年 4月3日 天気 くもり 気温18度

イネ科	40%	イネ科	40%
アレチギシギシ	30%	ヤエムグラ	16%
地面	20%	カラスノエンドウ	12%
コハコベ	10%	アレチギシギシ	10%
オニタビラコ		ヨモギ	10%
ヨモギ		板がいてある部分	10%
ヤエムグラ		セイタカアワダチソウ	1%
		セキウランポポ	1%
		アイノゲン	1%
		オオイヌフグリ	
		キウリグサ	
		ホトケナ	

イネ科	50%	アップルミント	50%
アップルミント	10%	ヤエムグラ	20%
アレチギシギシ	10%	板がいてある部分	15%
ヤエムグラ	10%	セイタカアワダチソウ	10%
ススキ	10%	カラスノエンドウ	5%
ヨモギ	8%		
カマツリグサのなかま	1%		
コハコベ	1%		
オオイヌフグリ			
スズメノエンドウ			
アメリカフウロ			
ヒナタイノコヅチ			
ニホンズイセン			

この日に見られた生き物

昆虫 アオバアリガタハナカクシ 鳥 ヒバリ

昆虫 モンシロチョウ 鳥 ヒヨドリ

昆虫 ヒメカノコデントウ 鳥類 カナヘビ

昆虫 さなぎ(？) (すぐおいたい形)

昆虫 ナナホシデントウ

昆虫 オオカマキリ 卵

昆虫 ヒメアカホシデントウ

昆虫 テングチョウ

2016年 7月29日 天気 晴れ 気温31度

ススキ	40%	ヨモギ	20%
ヒナタイノコヅチ	30%	ホシアサガオ	15%
ヨモギ	10%	板がいてある部分	10%
ホシアサガオ	10%	ヘクソカズラ	5%
マルバツユクサ	5%	セイタカアワダチソウ	
ノブドウ	5%		
メリケンガヤツリ			

ススキ	23%	ヨモギ	5%
ヒナタイノコヅチ	28%	ヒナタイノコヅチ	5%
アレチギシギシ	2%	セイタカアワダチソウ	
ヨモギ	2%	アレチギシギシ	
ホシアサガオ	2%	ヘクソカズラ	
マルバツユクサ	2%	メヒシバ	
アレチギシギシ			
メリケンガヤツリ			

●この日に見られた生き物

昆虫 ヒメジキノメ

昆虫 アオカナブン

昆虫 スズメバチ

は虫類 ニホントカゲ

鳥 ウグイス

2016年 8月24日 天気 晴れ

ススキ	30%	ヨモギ	40%
メヒシバ	15%	ヒナタイノコヅチ	35%
イヌタデ	15%	板がいてある部分	10%
ノブドウ	10%	ホシアサガオ	5%
アレチスズミハギ	10%	ヨモギ	4%
ヨモギ	6%	イヌタデ	4%
マルバツユクサ	5%	メヒシバ	3%
ヒナタイノコヅチ	5%	ヘクソカズラ	
ツユクサ	4%	アップルミント	
ホシアサガオ		マルバツユクサ	
メリケンガヤツリ		コハコベ	

ススキ	35%	アキノコログサ	30%
ヒナタイノコヅチ	17%	板がいてある部分	15%
アキノコログサ	10%	地面	14%
イヌタデ	10%	ヒナタイノコヅチ	12%
ノブドウ	10%	ヨモギ	7%
ヨモギ	5%	マルバツユクサ	6%
マルバツユクサ	5%	ホシアサガオ	5%
アップルミント	3%	アップルミント	5%
メヒシバ	2%	イヌタデ	3%
メリケンガヤツリ	2%	ヘクソカズラ	3%
ホシアサガオ		ノブドウ	

●この日に見られた生き物

昆虫 シオカラトンボ

昆虫 ナミアゲハ

2016年4月3日

2016年7月29日

2016年8月24日

(3) 庭の変化

季節によって在来種も外来種も生える種類が少しずつちがった。

ア 冬：アレチギシギシが冬も葉をひろげていて、春から夏にかけては急成長した。

アレチギシギシは夏には枯れても、いつも根っこが残っていた。セイトカアワダチソウは年末まで花が咲いていたが、春もすぐに芽を出した。在来種のヨモギ、ヒナタイノコヅチは、冬は枯れていたが、姿は残っていた。

イ 4～6月：イネ科がそれぞれのエリアの10～50%の面積を占めた。外来種のネズミムギと在来種のカモジグサが生えたが、最初は葉だけだったので種名がわからなかったが穂が出て種名がわかってからは、ネズミムギを刈ってカモジグサを残した。ほかにもヤエムグラ、カラスノエンドウ、スズメノエンドウが面積を多くとって生えた。オオイヌフグリ、ホトケノザがたくさん花を咲かせた。

ウ 6～8月：外来種は、マルバツユクサ、ホシアサガオ、コセンダングサが急成長した。在来種は、ヨモギ、ススキ、アキノエノコログサ、ノブドウが雨ごとにグングン成長した。ヒナタイノコヅチは、まだ小さいうちから抜いたので、それほど増えなかった。イヌタデやツユクサはなるべく増えるようにまわりのヒナタイノコヅチを抜きながら観察していたが、アキノエノコログサやヨモギなどには増えなかった。

エ 一年中：いつでも生えていたのはアップルミントだった。アップルミントはそれぞれのエリアで30～40%となるが多かった。

オ 全体の変化：外来種を抜く回数を重ねるごとに、その場所でいちばん面積を広く使って生える種類がだんだんとうつり変わっていくのがわかった。アップルミントが最も多かったが、根っこから取り除く作業をくり返していくうちに、だんだんとその面積は小さくなった。代わって、春はコハコベやヤエムグラなどが生え、夏はツユクサやイヌタ

デがまとまって生え始めた。最終調査の8月24日は、どの調査エリアもいちばん面積を広く使っていたのは、在来種に置きかわることができた。

(4) 外来種を抜いて土がむき出しになった所にまっ先に生えた植物

アップルミント、ホシアサガオ、マルバツユクサ、ヒナタイノコヅチ。まっ先に生えてくる植物は、芽が出て双葉になって本葉が出るまで3日くらいで育つ。特徴として葉が丸くて大きいもの、葉のつき方が四方に広がっているものが多いと思った。

5 庭の外来種について

家の外来種のうち「生態系被害防止外来種リスト」にのっている種は8種だった（セイタカアワダチソウ、セイヨウタンポポ、アレチヌスビトハギ、ホシアサガオ、ヒメジョオン、ヒメヒオウギズイセン、メリケンガヤツリ、タチスズメノヒエ）。

6 まとめ

- (1) 外来種を全部抜いて在来種の庭にすることはできたのか？ →ほぼできたと言える。それまでアップルミントが大半をおおっていたが、8月24日には、アップルミントは、全体の1割以下になり、草丈も10cm以下でキープしているので、在来種が元気に育つ環境になった。

ヒナタイノコヅチは早めに抜いたらあまり生えなくなった。

- (2) どんな在来種が生えたか？

○内は2016年

に新たに確認できた在来種数

- ・ 4～5月の在来種：12種類（うち6種）
- ・ 6～8月の在来種：8種類（うち1種）

5年生のときに比べて、今年は種類も占める面積も増えた。

7 その他

庭全体（重点観察エリア外も含む）で見つけた生物数

（2013年7月～2016年8月）

＜植物＞自然に生えた草（在来種）37種/（外来種）16種、植えた草8種、自然に生えた木（在来種）14種、植えた木8種
＜動物＞昆虫類116種、クモ類5種、両生・は虫類6種、鳥類14種、その他7種

8 感想

今年の研究では、しっかり草刈りをするといろいろな草が生える可能性があるということがわかり、面白いと思った。



●年間通して見られた種（枯れた状態でも残っている）	
外来種	在来種
1 アップルミント	ヨモギ
2 アレチギンギン	ススキ
3 セイタカアワダチソウ	ヒナタイノコヅチ
●4～5月に見られた種	
外来種	在来種
1 ※ネズミムギ	※カモシグサ
2 セイヨウタンポポ	※ヤエムグラ
3 アイノゲシ	カラタネノエンドウ
4 アメリカワロ	ホトケノザ
5 ※ニホンズイセン	※キュウリグサ
6	※コハコベ
7	オオイタノフグ
8	※オニタビラコ
9	スズメノエンドウ
10	※トウバナ
11	カタバミ
12	オキナグサ
●6～8月に見られた種	
外来種	在来種
1 ※ヒメヒオウギズイセン	アキノエノコグサ
2 コセンダン	ノブドウ
3 ヒメジョオン	イヌタデ
4 マルバツユクサ	ツユクサ
5 ヒメムカシヨモギ	オオイタデ
6 アレチヌスビトハギ	メヒシバ
7 メリケンガヤツリ	ヘクソカズ
8 ホシアサガオ	※クワサ
※は今年新たに生えた種	

2016年の重点観察エリアに生えた植物→